

令和3年度和歌山県文化奨励賞

まつ い しゅんすけ
松井 俊介

住 所 和歌山県和歌山市
出身地 和歌山県和歌山市
生 年 昭和53年

◎ 業績及び経歴

昭和53年和歌山市に生まれる。3歳にして初舞台を踏む。喜多流能楽師で重要無形文化財保持者の父、彬氏の影響で、6歳から能の「仕舞」を習う。子方として大きな舞台に出演し、宗家との共演も果たすなど、幼少期から能の世界に慣れ親しむ。学業と能の両立に葛藤も生まれる中、高校卒業の直前に「弱法師」の舞台を見たことで能楽師となることを決意。平成8年大阪能楽協会養成会に入会する。後に、喜多流職分長田驍師に師事。能楽協会名古屋支部へ入会し、プロ活動を開始。平成27年名古屋能楽堂にて猩々乱を抜く。

喜多流は、豊臣秀吉の前で7歳にして「羽衣」を舞い名を上げ「七つ太夫」と呼ばれた芸の天才、喜多七太夫長能を流祖とする。卓越した芸術的感覚により一流を創り出した七太夫は、大阪夏の陣への参戦後身を潜めたが、徳川家康と秀忠に能役者としての才を望まれ一流の創設を認められた。その芸風は、武士気質で素朴かつ豪放であり、多くの大名家から支持され、現在も特に地方で根強い人気を誇る。

氏は、喜多流の能楽師として父の彬氏とともに、日本のみならず、海外でも活躍を重ねる。平成19年にウズベキスタン国際音楽祭に参加。その後もアルゼンチン公演、バルト三国公演、スコットランド音楽祭、フィンランド公演に参加。平成25年にはポーランド日本国大使館において能を示教するなど、日本の伝統芸能である能の魅力や奥深い芸術性を国際的に発信している。また、国内では、NHK大河ドラマへの能楽師役としての出演や、りら創造芸術高等学校での後進指導など、舞台活動に留まらない多様な活躍を続けている。

関西で唯一の喜多流能楽師の若手、また、本県で唯一シテ方を務める若手能楽師として、国内外にわたり活躍する氏には、本県の能文化の担い手として将来一層の活躍が期待されている。

■ 現 在

・能楽師

◆ 主な表彰歴等

・令和2年 大桑文化奨励賞